

# こどもと健康

NO・164 2016・2・3

## インフルエンザの流行、急拡大！

先週急に冷え込みましたが、例年この時期から本格的なインフルエンザの流行が始まります。全国の感染症サーベイランスでは1月4～10日の第1週では一部休診の医療機関があったにも関わらず、1定点当たり、2.0と今シーズン初めて流行の始まりと言われる1.0を上回り、その後第2週4.1、第3週9.2と倍増し、都道府県別では新潟県29.3、沖縄県18.2、千葉県14.1と続き、17都道府県が注意報レベルの10を上回り、大阪府でも9.2と本格的な流行期に入りました。昨シーズンの流行はA香港型が96.6%で、B型(山形系統)が2.6%検出され、6年前に大流行したいわゆる新型(最近では、AH1pdm09型と呼ぶ)は僅か0.8%でした。今シーズンになって全国の衛生研究所で検出されるウイルスはA香港型が41%と最多で次いでAH1pdm型30%、B型(山形系統)16%、B型(ビクトリア系統)12%となっていますが、直近5週間では7年前に大流行したAH1pdm09が最多でB型が続いています。堺市では第3週で定点当たり7.3でしたが、第4週には18.9と急増しています。A型とB型が同時に流行しており、この1週間で堺市のインフルエンザ定点29か所で検出された548例の54%がA型でした。

2月2日現在、堺市では5校6学年で学年閉鎖、17校27クラスで学級閉鎖となっています。南区でははるみ小学校の4年生と庭代台小学校の1クラスだけです。なお、御池台小学校では2月1日迄インフルエンザで休んだ児童はゼロでしたが、当院で2日にA型が検出された児童がありました。堺市子ども急病診療センターでも1月31日(日)に304名が受診、225名で迅速検査を実施、A型59名、B型81名が検出され、泉北急病診療センター(内科)ではA型29名、B型12名が検出されており、小児ではB型、成人ではAが主流です。地域社会、学校などで異なる型が流行していますので、一度罹ったらもう安心とはならないようです。もうすぐ、高校入試、大学入試が始まります。受験生はワクチン接種が済んでいても、マスクをして外出、人込みを避ける、外出から帰ったらうがいと手洗い、睡眠を十分にとる、栄養に気を配る、疲れを残さない、規則正しい生活を守る等、難しいでしょうが、家族で配慮しましょう。周辺の保育園、幼稚園で多発していますので、南区の小中学校にも感染が拡大するでしょう。今月一杯は大きな流行が続くと思われます。

治療は今のところ、タミフル耐性ウイルスは数%に過ぎず、10歳台は異常行動の観点から吸入のイナビルが、1歳以上9歳未満はタミフルが主流になるでしょう。1歳未満にタミフルの適応がありませんので、重症の場合は静脈注射のラピアクタが使われます。

罹ってしまったら「咳エチケット」を心がけ、他人にうつさないようにしましょう。

# 「ジカ熱」って、何？

最近、新聞、テレビで「ジカ熱」が取り上げられることが増えてきました。我々、医師でさえほとんど知らないジカウイルスによる蚊が媒介する感染症です。蚊に刺されて発症するデング熱が一昨年の夏、東京・代々木公園で感染が拡がり、社会問題となりました。国内感染例はこの60年間なかったからでした。その後国内感染例は確認されていませんが、海外での感染例は昨年も292例報告されています。同じく、蚊が媒介するチクングニア熱も17例報告されています。日本ではジカ熱は過去僅か3例確認されただけですべて海外での感染例です。

ジカウイルスは1947年にアフリカ・ウガンダのジカZika森林でアカゲザルから分離され、この名があります。1968年には人からも分離され、2007年にジカ熱がヤップ島で流行、2013年にフランス領ポリネシアで1万人の感染が報告され、2014年にイースター島、2015年になってブラジル、コロンビア等南米で流行が発生し、中南米20数か国に拡大しています。特に、ブラジルでは150万人が罹患、罹った妊婦さんから発達障害等を引き起こす小頭症が多発、過去年間139～175例の発生数であったのが、2015年10月から2016年1月までに3530例も発生、WHOも放置できない事態となり、今日「緊急事態」を宣言しました。

ジカウイルスを持った蚊に刺されても多くは無症状で経過しますが、発症すると軽度の発熱(38.5度以下)頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹、結膜炎、倦怠感などを呈し、1週間程度で治癒して、デング熱、チクングニア熱より軽症と言われています。合併症として従来、ギラン・バレー症候群や血小板減少性紫斑病が指摘されてきましたが、今回妊婦が罹患すると小頭症を高率に合併することが判明して騒動となっています。なお、デング熱と同じく人から人への感染はありません。

日本にもジカウイルスを媒介するヒトスジシマカ(デング熱ウイルスも媒介)がいますので、今後注意が必要なことがあるかもしれません。今週はリオのカーニバル、夏にはリオ五輪があるので、ブラジルに渡航する日本人が増加しますが、長袖着用、蚊よけスプレーなど蚊に刺されない対策を講じる必要があります。少なくとも、妊婦さんは中南米への渡航は自粛した方が安全です。

日本にいる限り、そんなに神経質になることもないでしょう。蚊の季節になれば、日本脳炎もありますので、当然、蚊対策は必要でしょう。たとえ、患者が発生しても、ヒトスジシマカは越冬できませんので、一昨年のデング熱と同じように1年で終結する可能性が高いと言われます。

## B型肝炎ワクチン、10月から定期接種化！

予防接種上で定期接種化すべきワクチンにリストアップされているうちから、B型肝炎ワクチンが平成28年度から(10月実施予定)定期接種化されることとなります。対象年齢は2か月から1歳未満の予定で、生後2か月、3か月、7か月の3回接種が推奨されています。接種年齢に該当しない子は任意接種を受けるようにしましょう。平成27年11月に生まれた子は3回目を10月に接種するスケジュールを組むと3回目は定期接種として公費で接種できます。又、平成27年12月に生まれた子は10月に第1回、11月に第2回を接種すれば、2回分が公費で接種可能です。スケジュールについてはご相談ください。

ワクチンによる副反応は他の不活化ワクチンと同じく、注射部位の発赤、腫脹の他、発熱が僅かにある程度です。若年齢で感染を受けるとキャリアー化しやすいと言われています。このキャリアーは無症状ですが、10年20年30年と経過すると慢性肝炎から肝硬変、肝臓へと進展します。対象年齢以外の方もB型肝炎の予防と将来の肝臓の予防ワクチンと考えて、任意接種を受けましょう。